

スポーツ研究センターニュースレター

「ゴールデンスポーツイヤーズ」の幕開け！

スポーツ研究センター 副センター長 巽 樹理



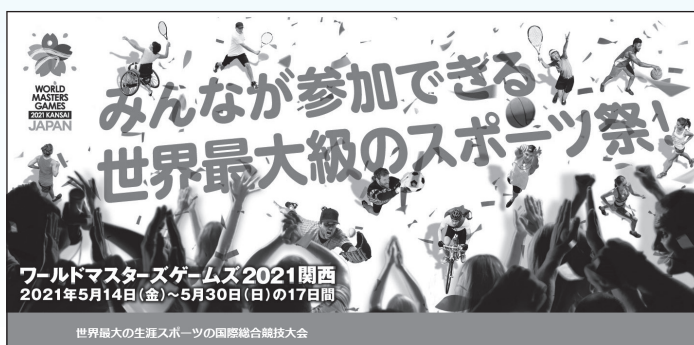
9月20日に開幕されたラグビーワールドカップでは、日本は1次リーグ1位通過と期待以上の結果を残し、ラグビーファンだけではなく、国民全体の関心が高まっています。地元（ホーム）での開催は、声援も大きな力になることは勿論、普段以上に注目度が高まり、今後の競技人口や観客増に繋がることが大いに期待できます。

さて、ラグビーワールドカップ（RWC）2019を皮切りに、2020年東京オリンピック・パラリンピック、そして忘れてはならないのが2021年世界最大の生涯スポーツイベントであるワールドマスターズゲーム（WMG）が関西で行われます。このように大規模なスポーツイベントが同一国（それも日本！）で行われるのは世界初であり、まさにこの「ゴールデンスポーツイヤーズ」を絶好の機会と捉え、アスリートや現在スポーツを実施している当事者のみならず、スポーツを「観戦する人」「支える人」など多様なスポーツへの参加で盛り上がることを願います。

さて今回は、2021年に開催されますワールドマスターズゲームズについて紹介いたします。

- 大会名：ワールドマスターズゲームズ2021関西
- 日程：2021年5月14日(金)～5月30日(日) 17日間
- 参加条件：概ね30歳以上のスポーツ愛好者であれば誰もが参加可能（予選なし！）
- 競技数：全35競技59種目、オープン競技 全30競技
※オープン競技とは、大会機運の醸成と大会参加機会を増やすことを目的に実施する競技。
- 目標参加者数：50,000人
- 申込期間：2020年2月～2021年2月（予定）

競技種目、開催地、申込方法などはの詳細はHP「ワールドマスターズゲームズ」(<https://www.wmg2021.jp/>)で検索してください。



福井地区いきいきサロン行事（ボッチャ）の報告

福井地区福祉委員会主催の「ボッチャの体験会」を担当しました。日時と場所などは次の通りです。

日 程：2019年7月1日(月) 13：30～15：00

場 所：福井公民館（大会議室）

参加人数：約40名

主 催：茨木市 福井地区福祉委員会（いきいきサロン部会、地域健康づくり部会）

講 師：松井 健（追手門学院大学スポーツ研究センター所員）

タイトル：「ボッチャの体験と健康のはなし」

第1部（約30分）では、「健康のはなし」として、高齢期における健康の維持・増進に関する話題を提供しました。運動の効果、食事・休養・睡眠などの大切さを具体的な事例や方法とともに紹介しました。



第2部（約1時間）では、ボッチャのルール説明後、6チームを編成し（1チーム約7名）、3カ所に分かれて対戦をしました。会議室を2分割して作ったコート、または和室を利用した急造コートを作成しました。コートは狭いながらも、対戦では大いに盛り上がり、各コートで歓声が上がっていました。



本学のボッチャ健康サークルが誕生して、はや5年。今回の福井地区など、周辺地域へボッチャの活動が広がっています。屋内で実施するため、天候に関係なくできる、時間帯を問わず実施できる、公民館等の会議室ほどのスペースで十分楽しむことができる、体力や年齢の差があってもみんなで楽しむことができる、などのメリットによって、これからも多くの地区へ広がっていくことを期待したいと思います。

（報告：松井 健）

学外イベント報告 その④ 国際学会報告

今年7月に、チェコプラハにて開催されたEuropean College Of Sports Science (ECSS)に参加した。本稿ではその報告を行う。スポーツセンシングセッションにてオーラル発表を行い海外の研究者とdiscussionをすることで、見識を深めた。学会全体での最たる事象としては、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを意識した発表が多く見受けられた。

海外研究者の視点は毎年勉強になることが多く、研究に対する刺激をもらえる貴重な機会である。私の発表に関しても、細かいところまで質問されるケースがあった。学会発表の演題としては下記の様に「Performance analysis using wearable acceleration sensor at youth elite soccer players in Japan.」を述べたが、その辺縁部に広がる内容にも言及する必要があり、どの様に切り返すかも含めて良い経験となった。(Fig1)

現在、実施している研究内容であるが、私の兼任先である大阪大学医学部スポーツ医学講座と共同研究企業である日立製作所と進捗している加速度センサーを用いた、チーム競技に対する練習やゲームに関するパフォーマンス解析を行っている。その成果の一部を本国際学会にて発表した。詳細等は別機会に報告したく考えている。

また、プラハの街並みも大変綺麗で風光明媚であり歴史を感じる建造物が多く(Fig2)学会自体もさることながら、期間中を通して、日頃の疲れも癒された事も報告しておく。



(Fig1 Discussionの様子)



(Fig2 プラハ市街地)

(報告：馬込 卓弥)

学外イベント報告 その⑤ ベトナム、ミャンマーでの実態調査

■ ベトナム/ハノイ視察

ベトナムの首都ハノイは緑と湖に恵まれた自然豊かなエリアがたくさんある街でした。

ベトナムでは、日本サッカー協会(JFA)から派遣されているU-16/U-19ベトナム女子代表監督兼女子代表テクニカルアドバイザー井尻明氏のコーチング環境の視察を行いました。そこでは、日本の指導者として、ベトナム国民の文化や思想を理解しながら、サッカーの発展に尽力し、指導されている姿は素晴らしかったです。また、施設の見学、調査等も協力して頂きました。



(U-19ベトナム女子代表選手とスタッフ)

■ ミャンマー/ヤンゴン視察



(ヤンゴンユナイテッド育成年代選手)

ミャンマーは、仏教国の象徴「パコダ」と呼ばれる多くの寺院があります。イギリス植民地時代のヨーロッパ風の建築物や近代的な高層建築物が立ち並び、活気に溢れた見所の多い街でした。

ヤンゴンユナイテッドのトップチームと育成環境の視察を行いました。ミャンマーの指導者は、トレーニングの中で選手に細かな基礎を徹底していました。どの指導者も、非常に情熱的であり、時折、叱咤激励の言葉が飛び交っていました。

また、能力の高い選手も多く見られました。しかし、選手の中には、経済的な面や立地的な面において難しい現状もあり、トップレベルに到達するまでにはいろいろな課題も多いようでした。

(報告：松山 博明)

飛び出せ世界へ！

がんばる追大アスリート
第5回



女子ラグビー部

新崎 麻未さん (社会学部 社会学科 3回生)

U18花園セブンズ選出 (高校1年生)
2015年太陽生命ウィメンズシリーズ総合3位 (高校2年生)
2018年太陽生命ウィメンズシリーズ総合3位 (大学2年生)
福井しあわせ国体優勝 大阪府代表 (大学2年生)
FISU第30回ユニバーシアード夏季競技大会2019優勝 (大学3年生)



奈良県御所市の出身で、追手門学院高等学校に在籍していた新崎麻未さん。御所市には、御所実業があり、ラグビーが有名な町として知られています。過疎化からの町おこしの一環として、ラグビーの普及に力を入れてることもあり、他の町より、ラグビーにかかわる機会があり、ラグビーに対して親しみはあったと伺いました。明るく元気で、どんなことにも前向きな姿勢で取組む、新崎麻未さんにお話を伺いました。

■ラグビーをはじめたきっかけを教えてください。

先輩方の花園ベスト8の試合を見に行く機会があり、その試合を見てとても感動したことが大きなきっかけです。その後、中学生のとき、女子バスケットボールに所属していましたが、向いていないと感じ、他のクラブを探していました。入部し直しするのであれば、今よりもっと上を目指したい!! 負けたくない!! という反骨心から当時、学校内で一番強かった男子ラグビーに入部し直し、そこからラグビー生活がスタートしました。(当時は、女子ラグビーが普及しておらず、男子ラグビーに所属)



(一番手前が新崎さん:高校生時代)

■自分にとってラグビーとはどんな存在ですか。

何故続けているかわからないですし、ラグビーはそこまで好きではないですね。でも、辞めようと思うタイミングで、いろいろな出会いがあり、今まで続けて来られました。中学生のとき、男子の中でプレーするため、血だらけで、ケガも多く、ボコボコにされる日々でした。そんな時、コーチがとてもよく面倒をみてくださいました。御所市にいと今後男子の中でプレーをすることになってしまうため、今後のことを考え、伝をたどって、女子ラグビーが兵庫県にあると聞きつけてくださいました。そして、神戸製鋼の拠点で女子ラグビー部があり、関西の女子を集めてのセレクションがあることを知り参加しました。はじめて同世代と会い、はじめて女子とプレーをして、今までは、男子にボコボコにされ、痛いただけだと思っていたのが、抜けるし、走ると一番だったことで、自分ではできるんだと、気づかされました。また、セレクションで成績が良かったため、兵庫県選抜に選ばれました。

とてもうれしく、はじめて成功体験を得ることができ、ラグビーをしてきた喜びを感じることができました。

兵庫県選抜で、全国大会にも参加し、ラグビーのおもしろさを発見することができました。

そんな中、自分が入学するタイミングで、追手門学院大学に女子ラグビー部が発足されることを知り、追手門学院大学に進学することを決め、現在まで続けています。

タイミングや、運、周りのサポートでここまで続けられているのかなと思います。

■学生生活と部活の両立

勉強は嫌いではありません。

あまり学校に行けていないのですが、同じ時間過ごすのであれば、自分に吸収できることは、MAX吸収したいと考える性格で、せっかく学校に来れたのであれば、ポーっと過ごすのではなく、今すぐに自分のためにならないようなことでも、しっかり吸収し、今後の自分に生かせるようにしたいと思っております。

その為、両立については、苦とは思っていません。

■試合前にスイッチがONになるタイミングはいつですか。

小学生～高校生までは、緊張をしなかったのですが、大学生から緊張するようになりました。その理由は、自分でもわからないのですが、対策として、声をおもいきり出し、叫ぶことと、背中をおもいきりたたいてもらい、スイッチを入れるようにしています。

自分の気持ちをプチッと切り替えるタイプではないため、頼りながら、無理やり気持ちを作っていくようにしています。



(緑のマウスピースしているのが新崎さん:大学生時代)

■好きな言葉はなんですか。

中学生のときにキャプテンになった際に、コーチから、【目配り・気配り・思いやり】を常に言われており、自分は、好きにしたいタイプで、誰かがやってくれるならそれでいいと思う性格だったこともあり、言葉の意味を中学卒業まで理解することはできませんでした。

しかし、高校生になり、キャプテンになったときに、選抜で出た大会で大きいケガをしてしまいました。キャプテンなのに、チームに迷惑をかけ、さらに試合にも出られず、リハビリのためにチームを抜けることが多くありました。自分の中で、キャプテンとは、試合に出て、チームを引っ張ることだと考えていたので、それができないことに対して、自分はできていないという思いが強かったのですが、そんな時【目配り・気配り・思いやり】を思い出し、プレーでは結果を出すことはできないが、サポート側としてチームに何ができるのかを考えサポートに徹しました。その結果として、各国から集まる大会で優勝することができました。

それにより【目配り・気配り・思いやり】の言葉の意味を少し理解することができたと感じました。

厳しいだけでは後輩もついてきてくれないので、厳しい中に思いやりを持ったり、気配りを忘れないようにし、これからも、その言葉を常に考えて行動していきたいと思います。

■今後の抱負について聞かせてください。

2020年東京オリンピックがあります。丁度そのタイミングに自分も大学4年生になるので、自分の中で期限を決めています。育成の時代から東京オリンピックに出場することを常に教えられていましたし、2020年東京オリンピックがもう目前に来ていますので、2020年東京オリンピック出場を目標としています。

今は、代表に呼んでもらえても、1軍に入ることがなかなかできていないのが現状ですが、今の気持ちとしては、人を蹴落として、代表に入りたいという考えではなく、後悔ないように、自分がやれること、自分ができるところをやりきりたいと考えています。そしてその結果、自分の姿勢が認められ声をかけられたらと思っています。

また、先日、オリンピックの話聞く機会がありました。

アーティスティックスイミングの選手だったのですが、1年目は、自分のポジションをキープすることが精一杯だったが、2年目にリオオリンピックがありその時に、自分がやれることをやりきりたいと思い取組もうと考え、練習に励んだそうです。最後には、胸をはって、「私は、アーティスティックスイミングをしていました」と言いたいとおっしゃっていて、私もその考えに共感しました。

私も最後には、胸をはって、「私は、ラグビーをしていました」と言えるように、厳しい合宿・練習・学生生活との両立もがんばっていききたいと思います。



(右端が新崎さん：高校生時代)

■最後に一言お願いします。

自分の世界が広がったのは、ラグビーがあったからだと思います。奈良の田舎で生まれ育ち、友達も学校全体で100人いるかいないくらいの人数だったのですが、同世代だけではなく、日本中に友達を作ることができました。他の競技をしている選手との交流や、オリンピックとの交流ができ、自分の世界観がいきなり全国に広がりました。

スポーツ(ラグビー)を通していろんなところに自分の可能性を広げることができたと思っています。

スポーツの魅力は、競技だけではなくその他、人脈も広げることができることだと感じています。

スポーツをやっていて、今までがんばってきたよかったですと思っています！

男子ラグビーからスタートし、高校3年生のときに、大きなケガで1年間試合に出れない状態が続きましたが、そこで辞めずに大学生まで続けられたのは、後悔したくない・負けたくない思いの強さ・反骨心・何事にも貪欲に取組む姿勢があったからだ、お話を伺い知ることができました。

その姿勢は、同じ時間過ごすなら、得をするように。また、自分で考えて工夫して行動すること、そして最後に決めるのは自分であることを、ご両親から教えられていたそうです。そして、今もその教えを全うされています。

2020年東京オリンピック間近に迫るなか、自分にできることをやりきりたい!! と強く語ってくれた新崎さん。お話を聞き、熱いエネルギーをいただきました。新崎さんならきっと、今までみたことのない景色に行けると強く感じました。全力で応援していきます。

皆さま、熱い声援をお願いいたします!!

(2019年10月17日に実施。聞き手：スポーツ研究センター所員 馬込 卓弥)



(真ん中が新崎さん：大学時代)



研究員コラム

大学スポーツから見えるスポーツインテグリティ

追手門学院大学 客員教授 / スポーツ研究センター 研究員

ホームー・ライス リーダーシップアカデミー

トータル・パーソン・プログラム ファシリテータ 吉田 良治

2018年、日本のスポーツ界で様々な不祥事が発生した。オリンピック代表クラスのトップアスリートによる不正行為、競技団体のガバナンスの問題や指導者の体罰・パワハラの問題等、2020年東京五輪・パラリンピックを目前に国も静観できなくなった。超党派の国会議員のスポーツ議連から“スポーツインテグリティの確保”の提言が出され、文部科学省は具体的にスポーツ界の不健全状態の改善を迫られた。

昨年発生したスポーツ界の不祥事で最も大きな影響があったのが、日本大学アメリカンフットボール部の危険タックル問題だ。私はこの問題解決で日本アメリカンフットボール協会フェアプレイ推進委員会に参加した。日本大学アメリカンフットボール部から、チーム再建のプログラム提供を求められた。提供したプログラムの内容はスポーツマンシップとライフスキルで、監督・コーチ、チームをサポートするOB、学生、チーム一体で取り組まれた。



日本大学アメリカンフットボール部のチーム再建プログラム



ホームー・ライス
(ジョージア工科大学提供)

このプログラムでは1980年にジョージア工科大学で開発された、米国の大学スポーツ初のアスリートプログラム、トータル・パーソン・プログラム (TPP) と同じコンセプトを用いた。TPPを開発したホームー・ライスは、当時米国スポーツ界にある様々な課題の改善ためTPPを開発した。TPPはのちにNCAA (全米大学体育協会) のライフスキルプログラムのモデルになり、ライスは全米200以上の大学でアスリートプログラム構築を支援し、今日全米中の大学スポーツで取り組まれている。

ジョージア工科大学のTPP成功事例として、1981年に入学したサム・ブラッケンを上げる。母子家庭で母親は酒と薬物中毒で、児童虐待と育児放棄という劣悪な環境で育ち、自分の人生は精神病院か刑務所で終わる、と考えて生きてきた。しかし大学でアメリカンフットボールとTPPに取り組み、人生は大きく変わっていった。ブラッケンは大学卒業後実社会で成功を収めた。特筆すべきは、世界的な人材育成プログラム“7つの習慣”を手掛けるフランクリン・コヴィー社で10年近く役員を務めたことだ。TPPが世界最先端の人材育成であることを証明している。

2019年までジョージア工科大学学長を務めたバド・ピーターソンは、“過ちを犯した若者を安易に切り捨ててはいけない。セカンドチャンス・やり直す機会と支援が必要だ。大学、そして指導者は受け入れた若者を社会へ送り出す責任がある”と語っていた。この言葉はスポーツを運営する大学のインテグリティ・高潔性を示している。



学生アスリートを社会へ送り出す
ジョージア工科大学バド・ピーターソン学長
(ジョージア工科大学提供)

スポーツ研究センター 秋学期の予定一覧

<センター事業>

1. 2019年度スポーツ研究センター設立5周年記念シンポジウム

「ジュニアアスリートの可能性を最大限に引き出す保護者の役割 ～最大の支援者（保護者）がイマできること！～」
 内容：運動・スポーツをしている子どもを持つ保護者を対象とし、どのようなサポート（栄養面、心理的サポートなど）
 が必要なのか、また正しい知識や身近にある悩みなど、登壇する有識者やオリンピックと共に意見交換を行います。

講師：奥野 史子 氏 バルセロナオリンピック シンクロナイズドスイミング

（現：アーティスティックスイミング） ソロ・デュエット銅メダリスト

浅越 しのぶ 氏 アテネオリンピック 女子テニス ダブルスベスト4

津吉 哲士 氏 関西福祉科学大学 准教授

コーディネーター：巽 樹理 氏（追手門学院大学 スポーツ研究センター 副センター長）

日時：11月16日(土) 10：30～12：15

定員：120名（申込み先着順）（申込みは、10/25(金) 12時～ 大学HPより<https://www.otemon.ac.jp/>）

会場：追手門学院大学 総持寺キャンパス

※同時時間帯に、シンポジウムに申込みいただいた方のお子様限定でこども教室を開催!!

追手門学院大学スポーツ研究センター
設立5周年記念シンポジウム

参加無料
申込先着順
120名

ジュニアアスリートの
可能性を
最大限に引き出す
保護者の役割
～最大の支援者（保護者）が
イマできること！

2019 11/16(土)

時間 10:30～12:15

会場 追手門学院大学
総持寺キャンパス
住所: 茨木市太田東町1-1

シンポジウムに
お申込みいただいた方
の子供限定で、同時開催に
こども教室を開催!!
詳しくは動画へ▶

運動・スポーツをしている子どもを持つ保護者を対象とし、どのようなサポート（栄養面、心理的サポートなど）が必要なのか
また正しい知識や身近にある悩みなど、登壇する有識者やオリンピックと共に意見交換を行います。

コーディネーター
巽 樹理 氏
アテネオリンピック
女子テニス ダブルスベスト4
現職
追手門学院大学 スポーツ研究センター 副センター長

講師
奥野 史子 氏
バルセロナオリンピック
シンクロナイズドスイミング
現職
アーティスティックスイミング
ソロ・デュエット銅メダリスト

浅越 しのぶ 氏
アテネオリンピック
女子テニス ダブルスベスト4
現職
追手門学院大学 スポーツ研究センター 准教授

津吉 哲士 氏
関西福祉科学大学
准教授

申し込みは
こちらから
10/25(金) 12時～ 11/16(土) 12時迄

後援：茨木市、NPO法人 茨木市体育協会 茨木市スポーツ少年団
お問い合わせ：追手門学院大学スポーツ研究センター TEL: 072-641-9090 Mail: sp@otemon.ac.jp

こども教室

時間 10:30～12:15 (受付10:00～) 会場 総持寺キャンパス

シンポジウムにお申し込みいただいた方のお子様限定で、同時開催にこども教室を開催します！

フォトフレーム作り
社会福祉部
フォトフレームに色をつけた紙粘土で
コーティングして飾りつけをし、
自分らしい等身立を作ろう!!

定員：30名
(申込先着順)

フォトフレーム作り
社会福祉部
フォトフレームに色をつけた紙粘土で
コーティングして飾りつけをし、
自分らしい等身立を作ろう!!

定員：30名
(申込先着順)

注意事項
・お申込みにつきまして、シンポジウムにお申し込みいただいた方のお子様限定とさせていただきますので、
お席の申込みコードの中に記載されているURLより、お申し込みいただけます。
・お一人様ごとの申込みとなります。
・教室内容が変更する場合がございます。

アクセス

追手門学院大学
茨木総持寺キャンパス

茨木総持寺キャンパス

最寄り駅からのアクセス
JR総持寺駅から徒歩約10分
阪急総持寺駅から徒歩約10分

路線バスのアクセス
阪急茨木市駅から近鉄バスが
キャンパスまで運行しております。(毎本約10分)
阪急茨木市駅 → 茨木総持寺キャンパス(土曜・祭日運行)

自動車でのアクセス
茨木総持寺キャンパスは駐車場に限りがございますので、
公共交通機関でのアクセスがおすすめです。
周辺にはコインパーキングもいくつかございます。
住所：茨木市太田東町1-1

2. シニアバスケットボール大会

日時：12月1日(日) 会場：追手門学院大学 安威キャンパス 体育館2階 第1体育室

3. 第10回追手門学院大学杯 茨木市スポーツ少年団少年野球大会

日時：12月14日(土)、15日(日) (予備日 12月21日(土)) 会場：追手門学院大学 安威キャンパス 第2グラウンド

4. ポッチャ健康サークル

日時：11/13、11/27、12/11、12/25、1/8、1/22、2/12、2/26、3/3、3/6

会場：追手門学院大学 安威キャンパス 体育館1階 第3体育室

<共催・協力事業>

1. 茨木市主催 ポッチャ交流大会

日時：12月7日(土) 午後 茨木市内体育館

2018年度スポーツ研究センター センター長・所員・研究者一覧

役 職	氏 名	所 属 等
センター長	辰 本 頼 弘	社会学部 教授
副センター長	巽 樹 理	社会学部 准教授
所 員	上 田 滋 夢	社会学部 教授
所 員	千 葉 英 史	社会学部 准教授
所 員	中 西 宏	学生支援課
所 員	馬 込 卓 弥	社会学部 准教授
所 員	松 井 健	社会学部 教授
所 員	松 山 博 明	社会学部 教授
研 究 員	高 島 孝 之	医療法人高島整形外科 院長
研 究 員	吉 田 良 治	本学客員教授
特 別 顧 問	金 森 喜 久 男	一般社団法人 情報セキュリティ・リスクマネジメント関西研究所 代表理事 パナソニック株式会社 客員
特 別 顧 問	児 玉 光 雄	スポーツ研究センター
事 務 員	谷 藤 由 紀	研究・社会連携課

2019.5.1現在



追手門学院大学 スポーツ研究センターニュースレター No.9

- 編集・発行 2019年10月31日
- 編集代表者 辰本 頼弘
- 発 行 所 追手門学院大学 スポーツ研究センター
〒567-8502 茨木市西安威2-1-15
TEL/072(641)9690 FAX/072(641)9695 (事務局 谷藤 由紀)
E-mail sports@otemon.ac.jp
<https://www.otemon.ac.jp/research/labo/csr.html>